



都の西北

2015年(平成27年)10月1日

早稲田大学校友会 昭島稲門会会報 第1号



会報の創刊にあたり

会長 梅田 正宏



昭島稲門会は30年前(1985年)に多摩地区15番目の稲門会として発足致しました。

以来30年間私を含めて5人の会長が務めてまいりましたが、設立時の理念であります「政治団体や特定組織などには関係なく、早稲田に学んだ校友の格式ばらない親しい交流のつどいの場」としての活動は一貫していると思います。早稲田大学と昭島市を共通のキーワードとして、幅広い年代層と多様な人生経験を経た多士済々たる会員間の交流は私にとって刺激的で愉しかったし、勉強にもなりました。

昭島稲門会の活動としては通年行事としての懇親会(飲み会)と趣味の会(ハイキング・ゴルフ)及び年次総会をベースとしております。また周辺稲門会との交流としては年次総会への相互招待や青梅線・武蔵五日市線合同稲酔会を輪番で開催しております。更には早稲田大学、早稲田大学校友会及び校友会東京三多摩支部との交流もあります。

しかしながら、近年私も含めて会員の高齢化が進む一方、新規加入者が少なくなっております。更には、若年層と女性の加入がほとんど無くなっているという問題も抱えております。他の稲門会も同様な問題を抱えているところが多いようですが、従来の延長での活動以外に何らかの新たな活動が必要と考えました。最大の課題は昭島稲門会の活動を会員以外の方々に伝える「アピール」する手段を持っていないことでした。そこで、創設30周年を迎えるに当たってホームページの開設を検討いたしましたが、ノウハウを持ち合わせていないことと情報伝達の完成形であるホームページまで持つていくには時間が足りないことが分かりました。よって、会報作成の経験とノウハウやイラスト作成の特技を所有する会員が中心になって昭島稲門会の会報を新規に発行することと致しました。紙面を通じて、昭島稲門会の活動及び会員の人となりやエピソードが紹介されると思いますが、愉しく、興味を持って読んで頂けることを期待しております。

昭島稲門会会報に寄せて

～皆さんに感謝と期待～



昭島市長 北川 穰一

(立川三田会)

昭島稲門会会報の創刊、誠におめでとうございます。

会員の皆様におかれましては、日頃より、市政に対しまして、多大なるご理解とお力添えを賜り、深く感謝を申し上げます。

今春の六大学野球の早慶戦は、ユーモアあふれるセリフのポスターによる応援舌戦が繰り広げられた効果か、球場はいつになく満員となったようです。

早慶戦は、伝統だけではなく両校の選手や卒業生が良きライバルとして信頼し尊敬しあっているからこそ、様々なスポーツにおいて盛り上がるのではないのでしょうか。

まちづくりにおいても、お互いを信頼し尊敬しあうことで、市民一人ひとりが尊重され、健康で文化的な生活ができる社会の実現へとつながるものと考えます。昭島稲門会の皆様には、長年培ってきた経験を活かしていただき、「住み続けたい・住んでみたい昭島」を目指すまちづくりへ、ぜひご協力をお願い申し上げます。

結びに、昭島稲門会の益々のご発展と、会員の皆様のご健勝、ご活躍を心からご祈念申し上げまして、会報の創刊にあたりましてのお祝いの言葉とさせていただきます。

第31回定期総会

日時：11月21日(土)午後2時

会場：昭島市民交流センター

詳しくは同封の案内書をご覧ください。多くの皆さまの参加をお待ちしております。

この人に聞く

前会長 岩崎 恵充氏

新会長のバックアップを!

私は昨年2014年11月の総会で会長を退任しましたが、昭島稲門会設立からの思い出を振り返ってみます。



昭島稲門会は1985年11月に発足しましたので、今年は30周年になります。初代会長は白川宗雪氏、二代目会長は植田實氏、三代目会長は内田順也氏でした。私は2008年に四代目会長になり、2014年に五代目会長の梅田正宏氏へバトンタッチしました。白川氏はお酒の好きな豪放磊落な方で、設立総会の後で来賓として出席された当時の早稲田大学西原総長をお連れして立川のカラオケ店へ行ったことを覚えています。私は総長の前で「憧れのハワイ航路」を歌いました! 植田氏は1987年に会長に就任されましたが大変誠実な方で皆さんから慕われていました。内田氏は1989年から2007年までの18年間会長を務められましたが、お酒も強く口八丁手八丁の方で三多摩地区稲門会でも名物会長でした。残念ですが三人のお方は既に亡くなりました。

ひじ等の具合が悪くなった方がいて2011年から約3年間コンペを中止していましたが、新会員が稲門会に入られたので2013年12月から再スタートして今は春秋に年2回開催しています。毎年新春顔合わせ会、お花見、暑気払い、ハイキング、カラオケ、総会等の行事で皆さんと楽しく飲んで歌ったことも楽しい思い出です。

会長として、上述の他地区稲門会の総会に出席しましたので、会長、副会長、幹事長他の皆様とお付き合いができていろいろとご指導をいただきました。

昭島よりも後に設立された稲門会で会報を発行していて、昭島には会報がなかったのが気がかりだったので、梅田新会長になって設立30周年行事として会報を定期的に発行することが決まったのは大変すばらしいと思いました。今後とも会員の我々が新会長を全面的にバックアップしましょう!



内田会長の時までは昭島稲門会は中央線、京王線等の稲門会とも総会で

の交流がありました。2005年5月 第1回ゴルフコンペの交流がありました。昭島稲門会の予算の制約もあり、私の時から青梅線、五日市線沿線の立川、福生、羽村、青梅、あきる野、武蔵村山の稲門会との交流にさせていただきました。

在任中に一番記憶に残っているのは、2010年に「昭島稲門会の歩み」と題した設立25周年誌を副会長、幹事長、会計幹事他の皆様のご協力で作成したことです。大変立派な記念誌ができました。また、私が呼びかけて2005年にゴルフコンペをスタートしました。しかし、メンバーの方が亡くなったり、脚や

歴代会長プロフィール

初代会長 白川 宗雪氏

1985~1987年

昭和21年文学部卒
臨済宗建長寺派
広福寺住職
昭和62年5月16日没



第二代会長 植田 實氏

1987~1988年

昭和17年専商部卒
多摩中央信用金庫
専務理事
平成17年1月25日没



第三代会長 内田 順也氏

1989~2007年

昭和31年教育学部卒
臨済宗建長寺派
福蔵寺住職
平成20年5月22日没



第四代会長 岩崎 恵充氏

2007~2014年

昭和38年商学部卒
TDK米国副社長、フォリフォリジャパン
常務取締役を経て現在、同社監査役

会員だより

いきもの 南極の海と氷と生物たち

渡部 公正 (昭和37年法学部卒)



極地に立つ筆者と夫人、後方にクルーズ船

私たちの「大自然 南極クルーズ」船は、仏の新鋭船ル・ソレアル(2013年7月就航、総トン数10,700ト、定員264名、スタビライザー装着)で、アルゼンチンの「世界最南端の町」ウシュアイアを2015年2月21日に

出港、南米最南端のホーン岬と南極大陸との間のドレーク海峡を南下した。ドレーク海峡は、世界一幅の広い海峡で最狭部でも約650*₀、「世界で最も荒れる海域」は「吠える50度」「絶叫する60度」と恐れられているが、船内はさしたる揺れもなくサウスシェトランド諸島に到達、23～25日ゾディアック(強化ゴムボート)で上陸と周遊をし

《南極での上陸、周遊等》

・島上陸：アイチョー島(サウスシェトランド諸島、南緯62度24分)、デセプション島(同、62度57分)、ポート・ロックロイ(64度49分)…島にペンギン(天敵トウゾクカモメも)、アザラシ、オットセイが棲む。ポート・ロックロイで郵便投函。

・半島上陸：ネコハーバー(64度50分)、至近距離に崩落寸前の数十*₀氷河が直立(視界を外した後でドローンと崩落)〈写真下〉。海面は崩落した氷山が覆う。ジェンツーペンギンの海と営巣地の雪山〈写真右〉を往来する姿が愛しい。

・湾内周遊：パラダイス湾、氷河・氷山が海面に映る「地球上で最も美しい自然港」。ウイルヘルミナ湾、ペンギン、オットセイ、ザトウクジラ、ミンククジラ等多数、流氷も。

24日妻の誕生日、レストランのチーフとスタッフが〔HAPPY BIRTHDAY LE SOLEAL〕を掲げ歌とケーキで祝福してくれ、日本人約100人の客からも拍手を頂戴した。25日最後の夜、同志6人で船のバーへ。南極の氷に



小さな空気の球があり、それがプチプチと割れる音がする。何万年も前の水と空気が溶け合っている、その氷に店推奨 CHIVAS のオンザロックで「よくぞここまで」と乾杯。

船は26～27日ドレーク海峡を北上、27日20:15ウシュアイアに着岸した。島と半島に上陸、人を恐れない数多の生物に接し、ゾディアックとクルーズ船から氷河、氷山、流氷と海に棲む生物を間近に見て感動した。太古からの大自然が現存する南極、人類共有のこの財産、確かに未来に伝えなければならないと思う。



あなたも入会して

—30年間のアルバムの



1985年(昭和60年)設立総会の出席者(福社会館)



1998年(平成10年)昭島稲門会主管の三多摩支部大会で白井総長、北川市長、応援の女子学生も

⑤125周年募金達成記念フラッグの紹介
⑥校歌・応援歌を元気いっぱい歌う

参加してみませんか

記念のショットから――



2014年(平成25年)度の総会。挨拶をする北川市長



山中幹事長のインタビューを受ける現役の女子学生



ハイキング、お花見などの行事、カラオケやゴルフなどの同好会も



本年2月、元気につどった新春懇親会で



主 要 年 譜

西 曆 (和 曆) 月 日	事 項	会 場
1985年（昭和60年）11月24日	早稲田大学 昭島稲門会発足 設立総会および懇親会を挙行 記念事業として昭島市社会福祉協議会 へ寄付金贈呈	昭島市福祉会館
1990年（平成2年）11月24日	設立5周年イベント開催	中華料理翠鳳楼
1991年（平成2年）11月24日	三多摩支部大会 主管担当 (立川稲門会と共催)	立川リーセント パークホテル
1994年（平成6年）11月24日	設立10周年イベント開催	中華料理翠鳳楼
1999年（平成11年）11月24日	設立15周年イベント開催	昭島市福祉会館
2004年（平成16年）11月24日	設立20周年イベント開催	昭島市福祉会館
2005年（平成17年） 8月27日 10月2日	三多摩支部会長会主管 三多摩支部大会主管	青梅 勝仙閣 フォレストイン 昭和館
2008年（平成20年）11月15日	大学創立125周年記念募金目標達成 総長室よりチャンピオンフラッグを受賞	昭島市民交流セ ンター
2010年（平成22年）11月13日	設立25周年記念誌発行 名称を早稲田大学校友会昭島稲門会に改 める	昭島市民交流セ ンター

平成26年 第30回定期総会報告

平成26年11月15日、昭島市民交流センターにて、
会員20名、準会員1名、学生2名、来賓として北川穰一
昭島市長、岡本宏一早稲田大学総長室長兼渉外局長ほか近
隣稲門会から10名の参加をいただき、総勢33名で開催
されました。

第一部の総会では役員の変更があり、会長に梅田正宏氏、
副会長に佐藤清氏、幹事長に山中皓博氏等6名が新たに選
任されました。また創立以来、会の発展に多大な貢献をし
ていただいた岩崎前会長は、新たに創設された顧問に就任
されました。

第二部、懇親会では新入会員2名および現役女子学生2
名も加わり、和気あいあいと賑やかに盛り上がりました。

来賓もほとんどが最後まで残り会員と歓談、最後に校歌斉
唱のあと岡本局長の音頭によるエールがあり、盛会のうち
に閉会しました。

役 員 名 簿

役職	氏名	卒年・学部
会長	梅田 正宏	昭43 理工
副会長	久保田 庸四郎	昭37 政経
〃	福田 武	昭35 法学
〃	佐藤 清	昭47 文学
会計幹事	平田 俊彦	昭42 法学
〃	渡部 公正	昭37 法学
幹事長	山中 皓博	昭43 理工
副幹事長	小池 民夫	昭43 政経
幹事	杉崎 源三郎	昭49 教育
〃	菅野 啓明	昭37 政経
〃	宮野 孝雄	昭57 社会
〃	西野 文昭	昭44 商学
〃	岡 三徳	昭37 法学
〃	清水 武	昭41 商学
会計監査	浅見 俊文	昭27 政経
〃	内藤 俊一	昭37 理工
顧問	岩崎 恵充	昭38 商学

東海林さだおと私のワセダ漫研時代

福田 たけし (昭和35年法学部卒)

昭島稲門会の皆さんにはいろいろな折に話をしているのでご存知の方も多いかもかもしれませんが、私は早稲田の「漫画研究会」の創設メンバーのひとりでした。

今でこそ知名度も上がりメジャーとなった「早稲田の^{まんげん}漫研」ですが、私たちが60年前に創設した当時は部員も数人ほどで、部屋もない極めてマイナーなクラブでした。

当時の仲間のひとりの東海林さだお(本名 庄司禎雄 立川高校出身 32年文学部・露文入学)さんは、のちに漫画だけではなく、軽妙な文体のグルメエッセイストとしても有名になり「菊池寛賞」も受賞したほどの大物ですが、私の前では今でも1年違いの「後輩」です。

お互いに学生時代は画風も定まらず、先輩で指導役だった私は偉そうに、彼に「キミは少女向けのマンガを描いたらいい」と勧めたという赤面の思い出があります。今も酔って昔話に話が及ぶと彼は「福田先輩はいちばん絵がうまかった。プロになると思っていた・・・」などと私をおだててくれます。

プロになる資質も度胸もなくして平凡なサラリーマンで終わってしまった私も、定年退職後はもっぱら市やシルバー人材センターなどの依頼によって稚拙なマンガをボランティアで描いています。

老化で回転の鈍くなった頭を絞ってマンガのネタをひねり出して、そのうえ指先を動かして細かい絵を描くことは「認知症(ボケ)予防」に非常に効果があるようです。

この昭島稲門会の会報紙にも編集の清水委員のおだてに乗って4コママンガを描くハメになってしまいました。アイデアに苦しみながら、また結構楽しみながら、あまり面白くない4コママンガ描かせていただきますのでよろしく・・・。



漫研のパーティで
東海林さん(右)
と



母校追想

「早稲田は地球の上にある！」

清水 武(昭和41年商学部卒)

名物学部長が因で世界を回る？

昭和30年代後半の商学部には名物商学部長の中島正信教授がいた。専攻は国際経済論。小太りで髪の毛が濃く長くちょび髭が似合っていた。残念ながら先生の講座を受講する機会はなかったが「早稲田は地球の上にある！」との獅子吼は何回も耳にし他学部の学生にも知られていた。

「概に刺激されたから」は言い過ぎかもしれないが、呼びかけが胸のどこかに残っていて今の自分を創ってくれたように思う。卒業すると私は



NHK学園高校の教師を務め、そこでソ連旅行記を書いたことが縁となって新聞社に入り、やがて特派員として10年間パナマに駐在、北南米とヨーロッパを回っていた。

定年後はスペインのマラガ大学に1年間留学。そこから「ドン・キホーテ」を第1作目に世界文学紀行を始め、現在までに15作品に達した。現役時代と合わせると訪問国は40カ国を超える。今、講演会などで中島先生の言葉を引用させていただき、若者に世界への雄飛を呼びかけているところだ。

当時は商学部の建物の広い階段を4階の大教室まで駆け上がった。今はエレベーター・エスカレータ付きの高層ビルに変わっている。大言壮語を吐く教授も少なくなったようだが、いつの時代も名物教授がいると刺激されて楽しいものだ。(写真=当時)



きの高層ビルに変わっている。大言壮語を吐く教授も少なくなったようだが、いつの時代も名物教授がいると刺激されて楽しいものだ。(写真=当時)

キャンパスNow 記念会堂がなくなる！

入学式から卒業式まで数々の思い出の詰まった記念会堂が、老朽化で建て替えのため本年8月から解体が始まった。建物が竣工したのは1957年10月20日。本学創立75周年を記念し、戸山キャンパスにあった高等学院の跡地に建設された。収容人数は1階椅子席6000人、2回スタンド席2000人、立ち見を含めると約1万人。式典挙行を考慮した音響・照明設備や、自然光の差し込む天窗は、当時の体育館としては画期的な建築であった。

式典のほか、保健体育の授業や体育各部の練習・試合も行われた。また、58年第3回アジア競技大会では卓球の会場として、64年東京オリンピックではフェンシングの会場として使用された。大学スポーツの主要会場の一つとしても、これまでに多くの熱戦を生んできた。多機能型スポーツアリーナとして新たな姿を見せるのは2019年3月の予定だという。



解体される前の記念会堂

<編集後記>

ようやく創刊に漕ぎつけました。皆様の会報です。エッセイ、俳句、川柳等、何でもお寄せ下さい。これからホームページの立ち上げも予定、パソコンに詳しい方を求めています。応援可能な方はぜひ下記までご連絡をお願いします。(福田武・清水武)

今年度新たに行事に 参加された皆さん

氏名	卒年・学部
小宮山 正前	昭和50年 理工
平原 茂	昭和48年 理工
佐藤 雄一	平成26年 商学
川端 博美	昭和49年 法学
杉森 晴雄	昭和46年 教育
山岸 由道	昭和48年 教育

発行：早稲田大学校友会東京三多摩支部 昭島稲門会

会長：梅田 正宏
196-0031 昭島市福島町2-17-1
541-6008
umeda-masahiro@luck.ocn.ne.jp

幹事長：山中 皓博
196-0024 昭島市宮沢町2-14-39
544-1933
yamanaka-akihiro@nifty.com